

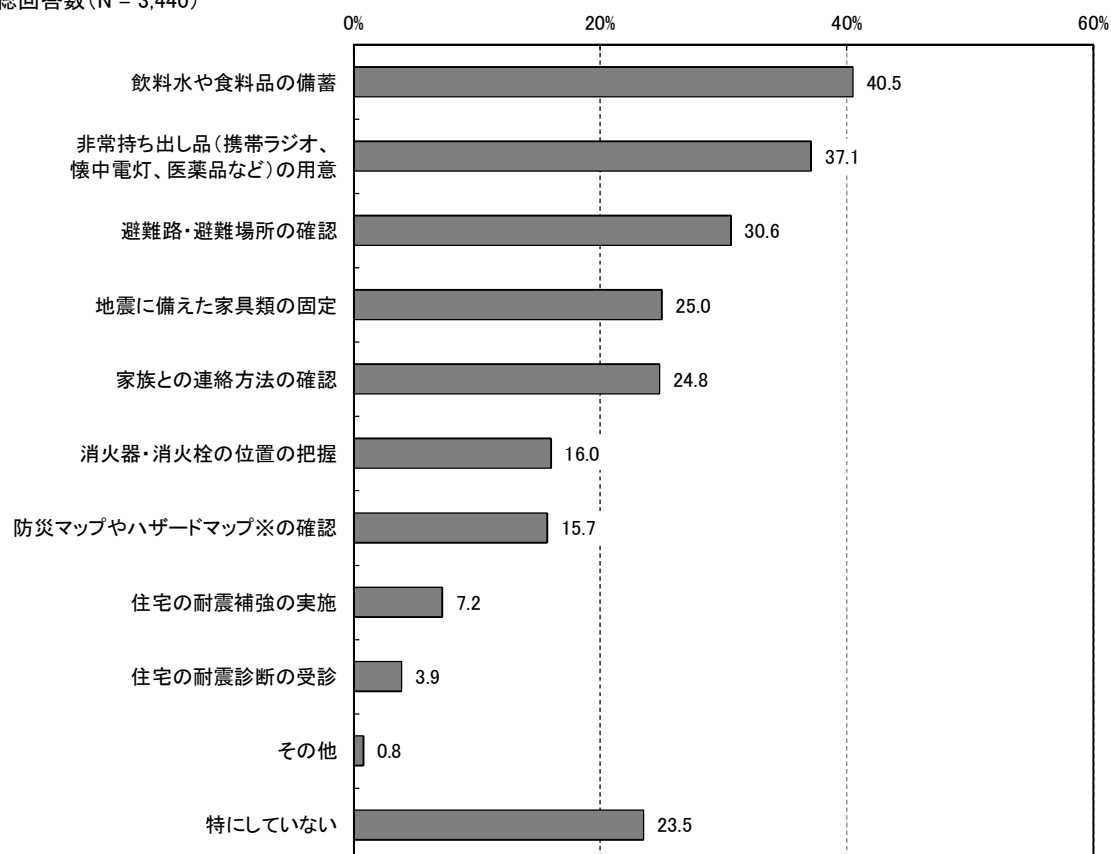
問24 災害や緊急時の現在できている備え

問24 あなたは、地震や台風などの災害や緊急時に備え、現在どのようなことをしていますか。(いくつでも)

全体(図24-1)で見ると、「飲料水や食料品の備蓄」が40.5%と最も高く、次いで「非常持ち出し品(携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品など)の用意」(37.1%)、「避難路・避難場所の確認」(30.6%)の順となっている。

図24-1 災害や緊急時の現在できている備え

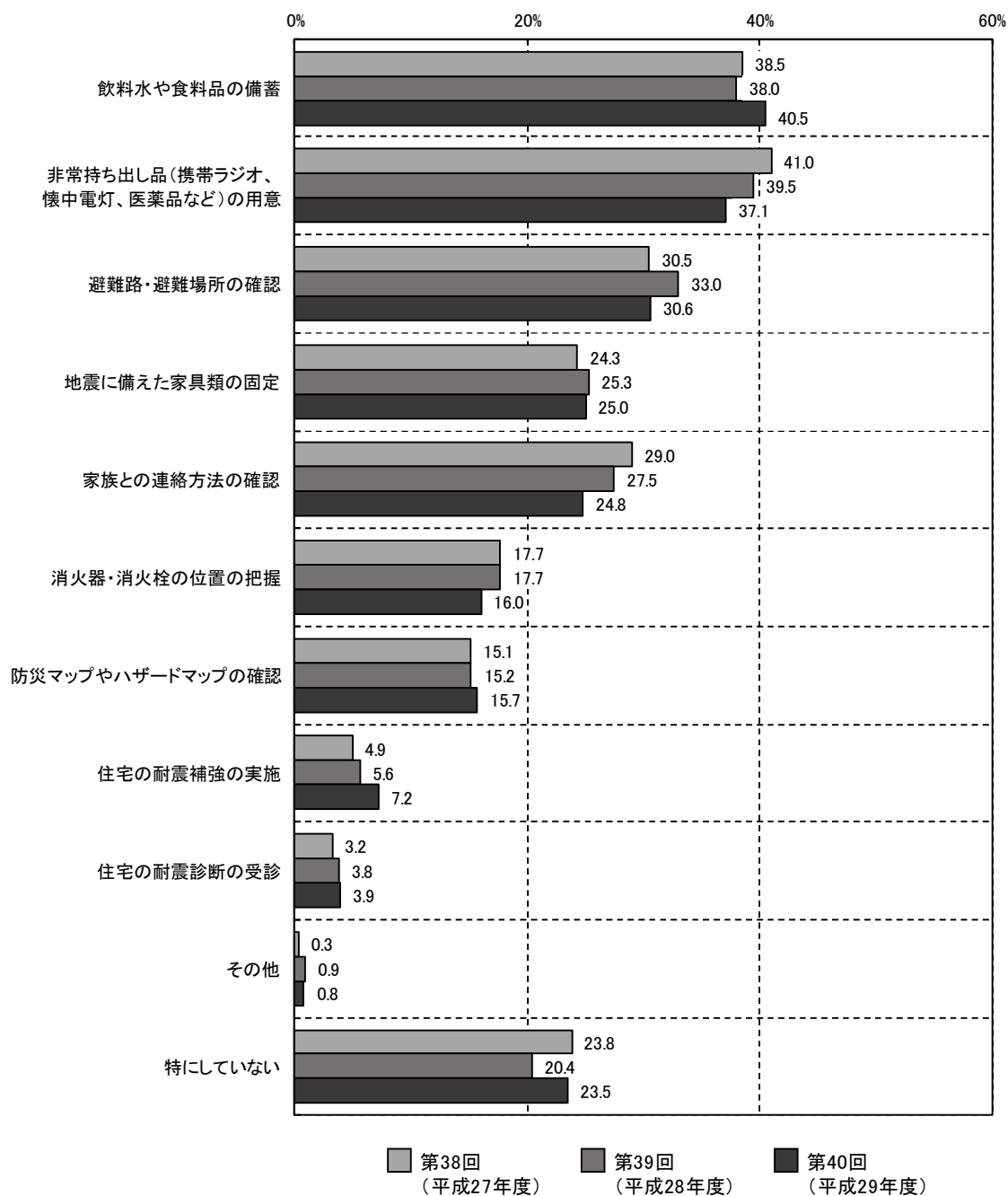
回答者数(n = 1,522)
総回答数(N = 3,440)



※ ハザードマップ: 自然災害による被害の軽減や防災対策に使用する目的で、被災想定区域や避難場所・避難経路などの防災関係施設の位置などを表示した地図

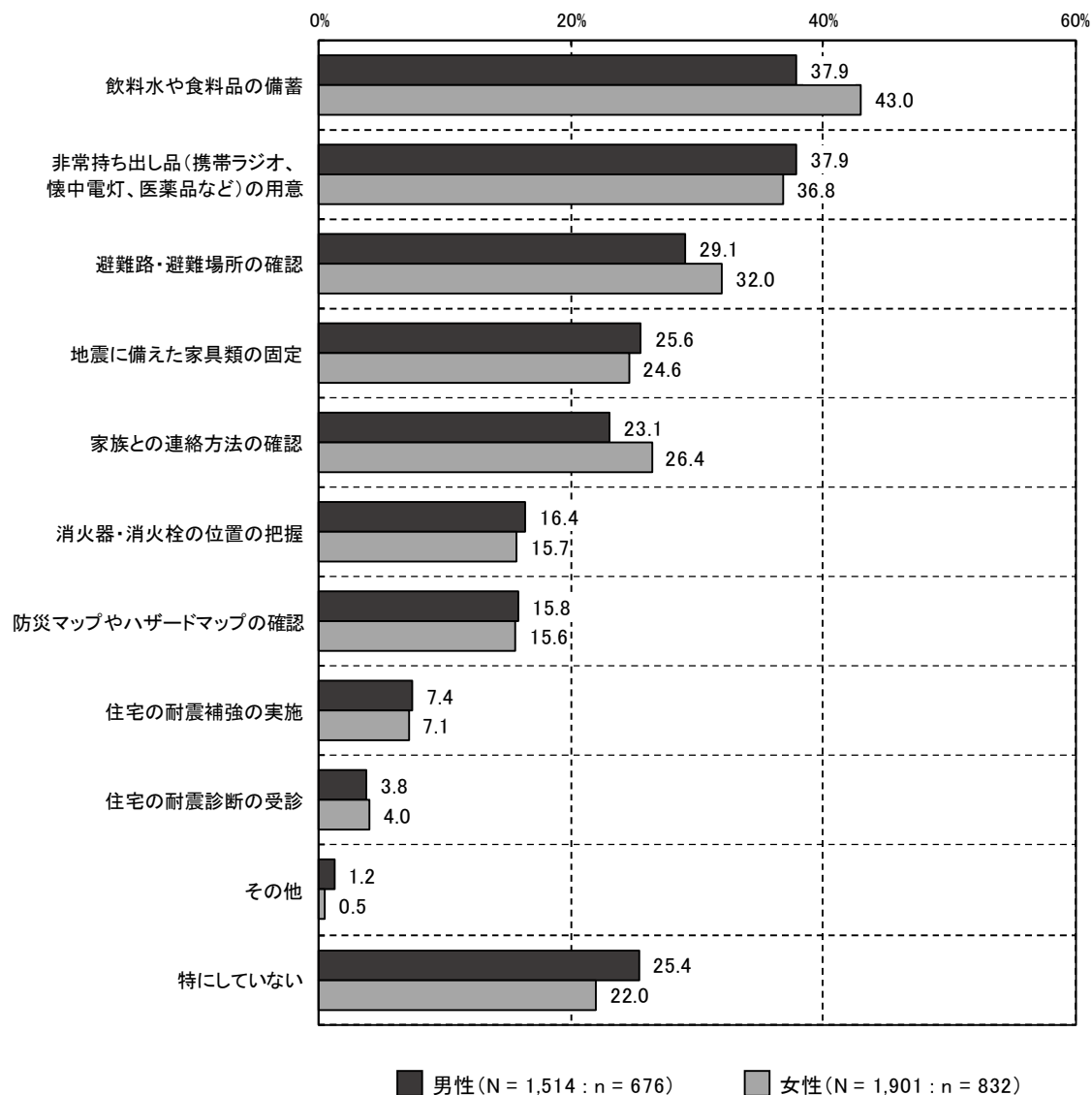
前々回・前回比較（図 24-2）でみると、今回は「飲料水や食料品の備蓄」が最も高く、前回と比べて 2.5 ポイント増加している。「非常持ち出し品（携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品など）の用意」は、前回と比べて 2.4 ポイント、「避難路・避難場所の確認」では、前回と比べて 2.4 ポイント、「家族との連絡方法の確認」では、前回と比べて 2.7 ポイント、それぞれ減少している。

図 24-2 【前々回・前回比較】 災害や緊急時の現在できている備え



性別(図 24-3)で見ると、男女ともに「飲料水や食料品の備蓄」が最も高く、男性が 37.9%、女性が 43.0%と、女性が男性より 5.1 ポイント高くなっている。男性は「非常持ち出し品(携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品など)の用意」でも 37.9%となっている。

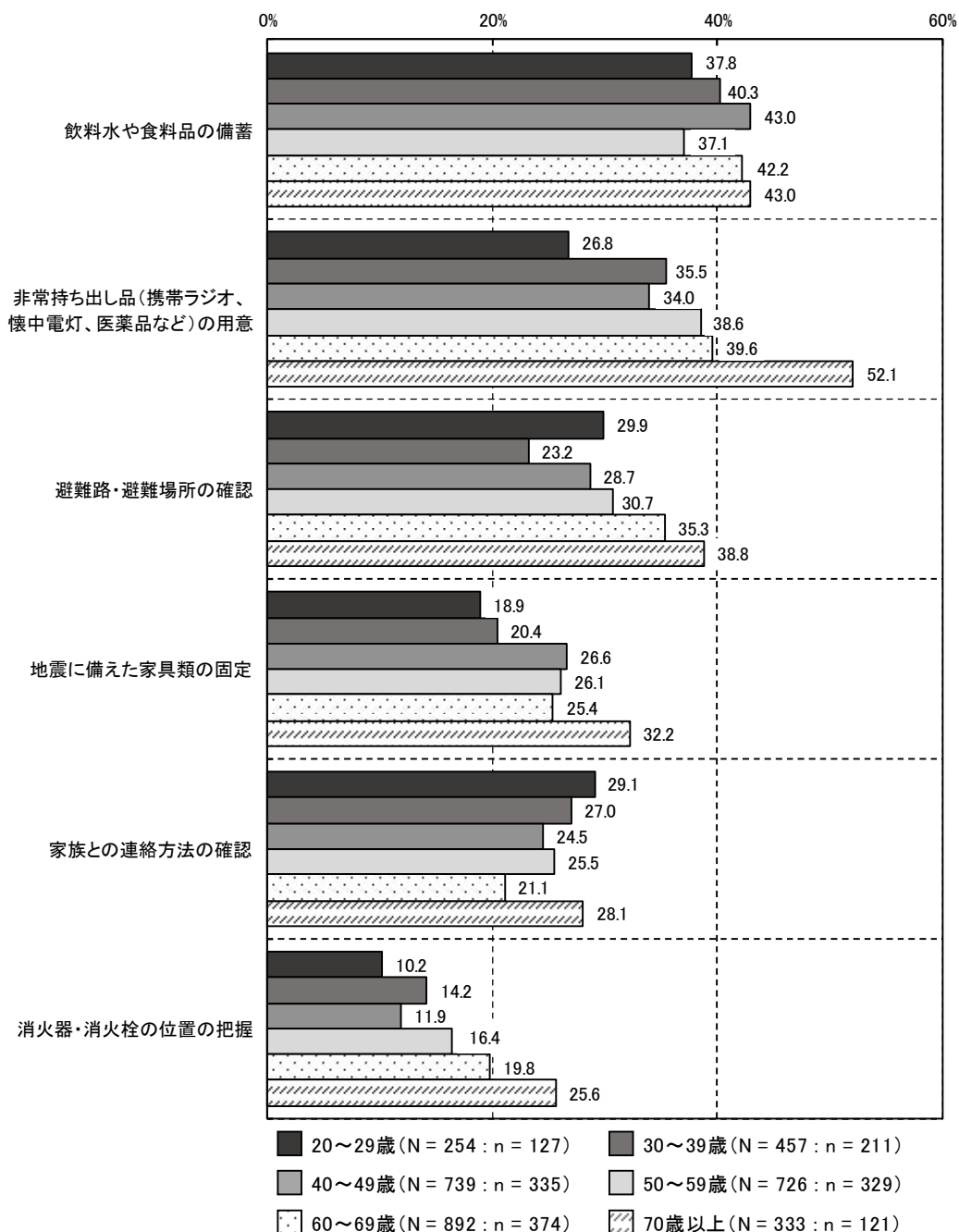
図 24-3 【性別】 災害や緊急時の現在できている備え



※ N=総回答数 n=回答者数

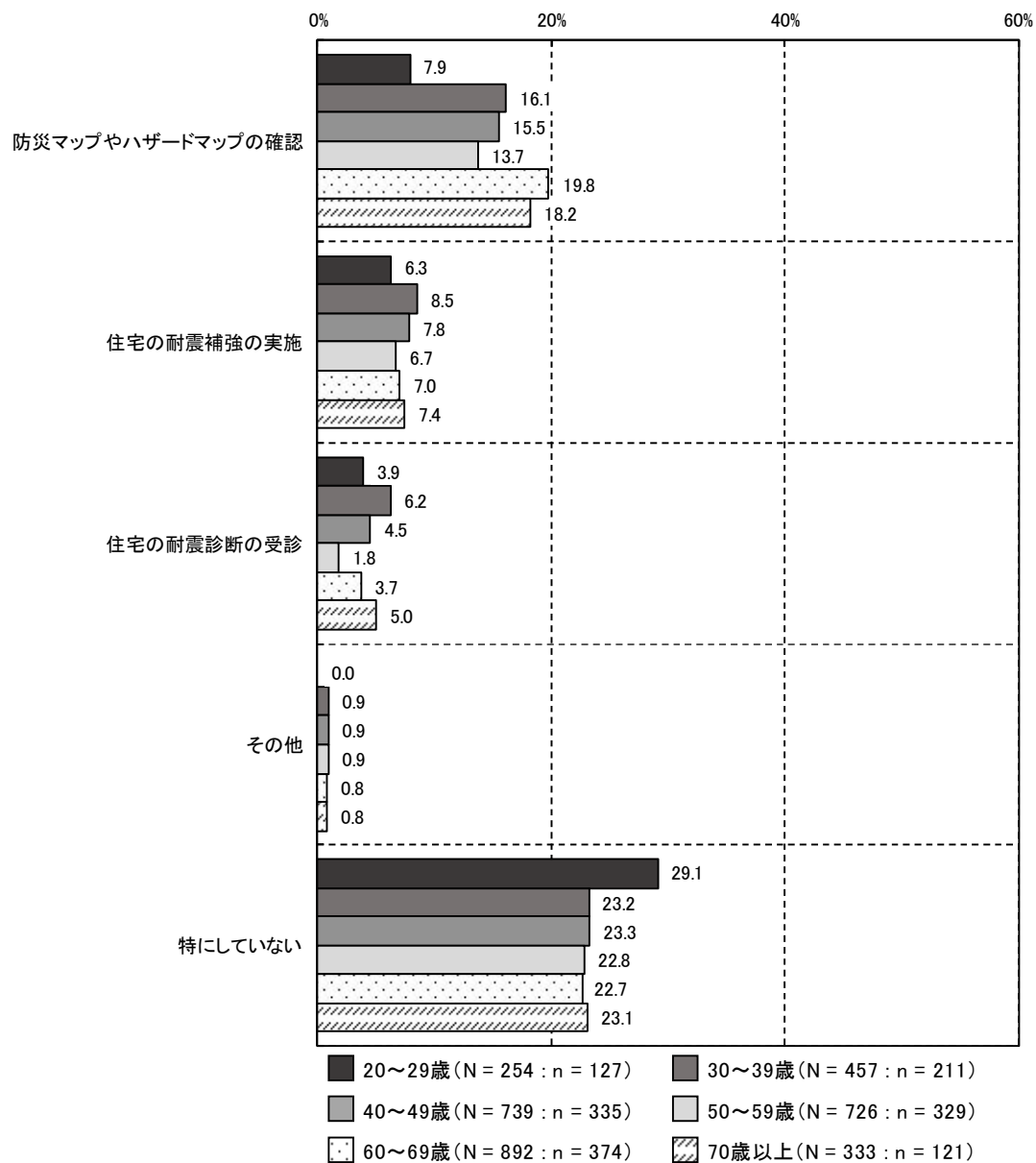
年代別（図 24-4）で見ると、20 歳代、30 歳代、40 歳代、60 歳代では「飲料水や食料品の備蓄」が最も高く、そのうち 40 歳代が 43.0%と最も高くなっている。50 歳代、70 歳以上では「非常持ち出し品（携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品など）の用意」が最も高く、そのうち 70 歳以上が 52.1%と最も高くなっている。

図 24-4 【年代別】災害や緊急時の現在できている備え



※ N=総回答数 n=回答者数

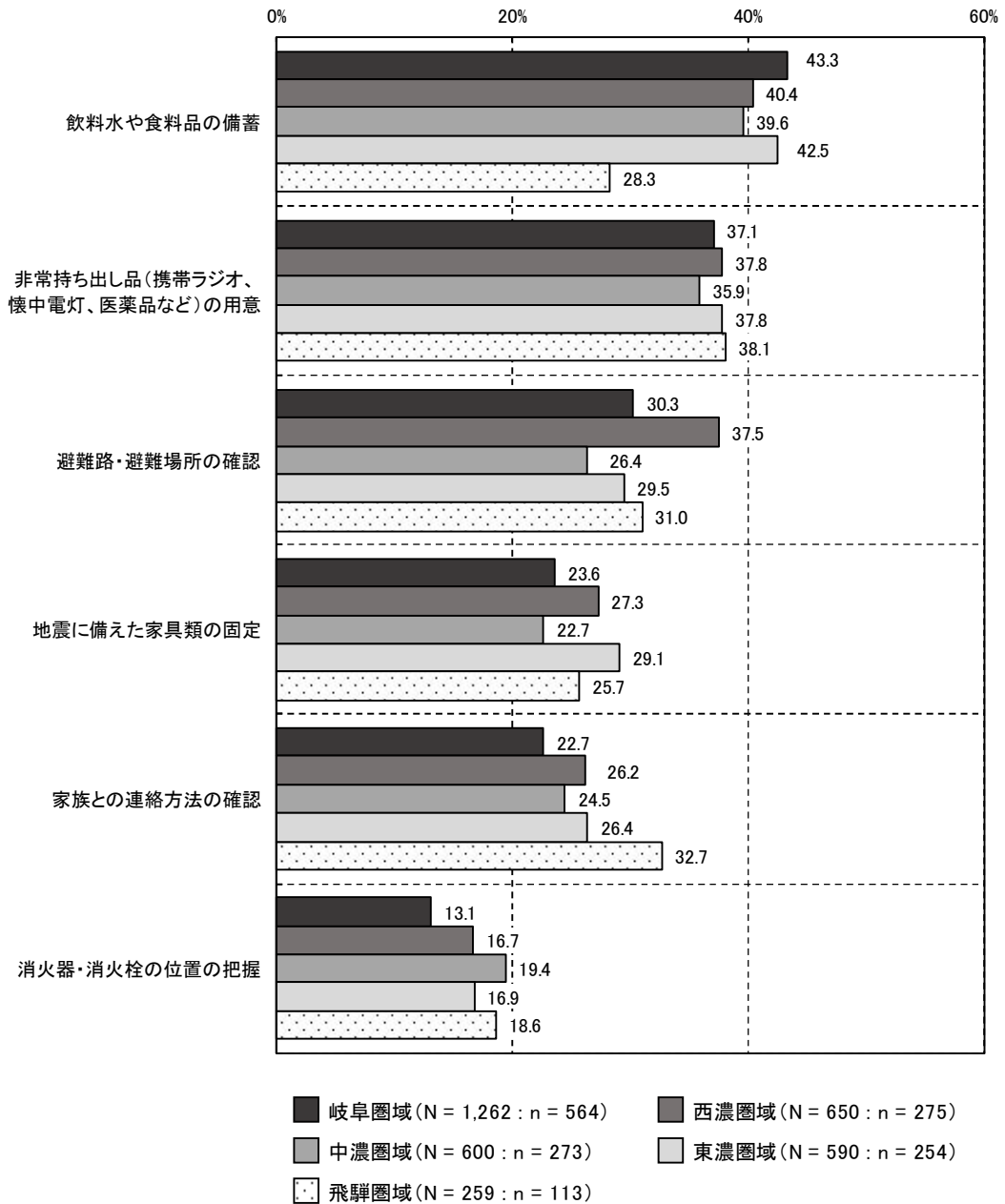
図 24-4 【年代別】 災害や緊急時の現在できている備え（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数

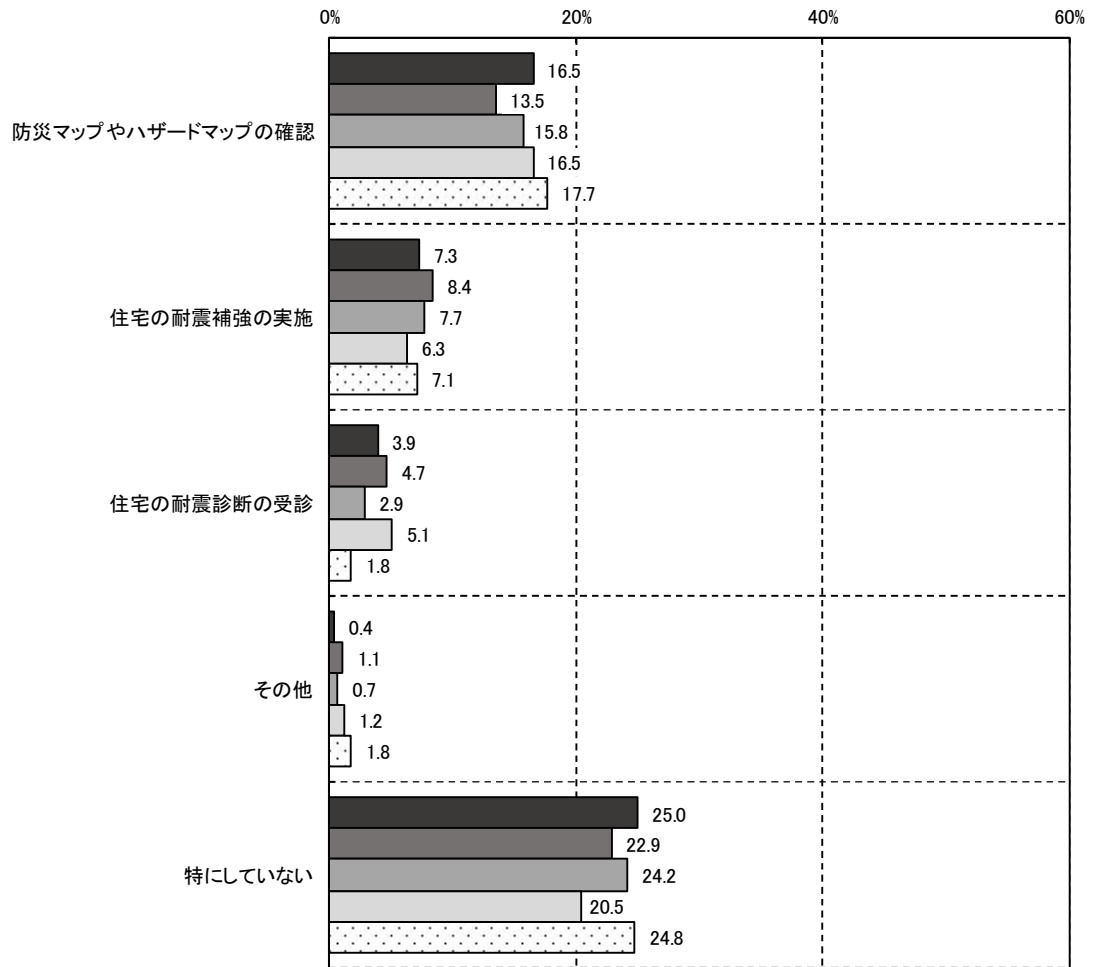
居住圏域別（図 24-5）で見ると、飛騨圏域を除くいずれの居住圏域においても「飲料水や食料品の備蓄」が最も高く、そのうち岐阜圏域が 43.3%と最も高くなっている。飛騨圏域では「非常持ち出し品（携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品など）の用意」が 38.1%と最も高くなっている。

図 24-5 【居住圏域別】 災害や緊急時の現在できている備え



※ N=総回答数 n=回答者数

図 24-5 【居住圏域別】 災害や緊急時の現在できている備え（続き）



■ 岐阜圏域 (N = 1,262 : n = 564) ■ 西濃圏域 (N = 650 : n = 275)
 ■ 中濃圏域 (N = 600 : n = 273) ■ 東濃圏域 (N = 590 : n = 254)
 ■ 飛騨圏域 (N = 259 : n = 113)

※ N=総回答数 n=回答者数